

令和4年度 小平第二みどり作業所 事業報告書

1 総括

令和4年度も新型コロナウイルス感染症の拡大防止の為、音楽活動を休止するなど感染リスクを考慮しながらの活動になった。幸い事業所内での集団感染は発生せず、年間を通して活動を継続することができた。また、新型コロナウイルスに対する社会的な対応の変化に伴い、活動も徐々にコロナ流行前に戻し、8月には、休止していた夕方の余暇支援を再開することができた。散歩やドライブなど感染リスクの低いことから始めたが、多くの利用者から利用希望を頂いた。一方クッキーやパンなどの販売イベントについては、コロナ流行前の3割程度の再開に留まった。しかし、イベントの代替として注文販売を増やしたことなどで、クッキーの売り上げは年間の目標に達することができた。

事業の重点目標については、令和2年度以降PDCAサイクルの実施による利用者支援の充実及び就労支援の充実を掲げてきたが、4年度についても十分な成果を上げることができなかつたと感じている。大きな課題であった職員の定着率が改善しないこともあり、事業の充実に取り組む協力体制が整えられなかったことが最大の原因と考えている。5年度以降も継続してこの課題に取り組んでいくが、スタッフ間の意思疎通の強化、目的意識の共有など、中長期的に取り組まなければならないと考えている。

2 事業概要

- 1) 施設名 小平第二みどり作業所
- 2) 事業種別 就労継続支援B型
- 3) 所在地 東京都小平市天神町3-7-16
- 4) 経営主体 社会福祉法人 未来
- 5) 利用定員 40名
- 6) 利用現員 48名 (令和5年3月31日現在)
- 7) 法人認可年月日 平成14年12月11日
- 8) 事業開始年月日 平成20年4月1日
- 9) 職員 14名 (令和5年3月31日現在)

管理者	1名	常勤1
サービス管理責任者	1名	常勤1
職業指導員	3名	(常勤換算3.0)
生活支援員	8名	(常勤換算5.8)
目標工賃達成指導員	1名	常勤1

- 3 基本理念 一人ひとりの自己実現
互いの尊厳の尊重と信頼関係の構築
安心と希望の持てる生活

4 基本方針

- 1) 就労支援
 - ① 利用者の個々の特性にあった就労支援事業の活性化
 - ② 生き生きと働ける職場
 - ③ 職業指導の充実
 - ④ 賃金の保障
 - ⑤ 就労移行支援の実施
- 2) 生活支援
 - ① 日中活動の支援
 - ② 豊かな生活の支援

- ③ 利用者一人ひとりの主体的な生活の支援
- ④ 個別支援計画に基づいた計画的な支援
- ⑤ 利用者への相談支援
- ⑥ 安心できる将来への支援

5 実施事業（活動内容）

1) 就労支援事業

- ① クッキー製造・販売
- ② パン製造・販売
- ③ 公園清掃
- ④ マンション清掃
- ⑤ 受注作業（ボーロ入れ作業等）

2) 生活支援事業

- ① レクリエーション（月1回実施）
- ② 音楽教室（年間通して中止）
- ③ 旅行（年1回実施）
- ④ 生活支援プログラム（週3日実施・ウォーキングのみ）
- ⑤ 夕方生活支援事業（4月～7月まで緊急時のみ対応、8月～3月まで週2日実施）

3) 行事

- 4月 永年勤続表彰式・新社会人を祝う会
- 5月 塗り絵
- 6月 灯籠づくり
- 7月 Tシャツづくり
- 8月 万華鏡・扇子づくり
- 9月 プラ板キーホルダーづくり
- 10月 一泊旅行
- 11月 クリスマスツリーづくり
- 12月 忘年会（ビンゴ・ボーリング）
- 1月 初詣
- 2月 エコバッグづくり
- 3月 防災訓練

6 日課

開所・送迎・清掃	8:30～	9:15
朝礼	9:15～	9:30
作業	9:30～	10:30
休憩	10:30～	10:45
作業	10:45～	11:45
片付け	11:45～	12:00
昼休み	12:00～	13:00
昼礼	13:00～	13:15
作業	13:15～	14:15
休憩	14:15～	14:30
作業	14:30～	15:30
終礼	15:30～	15:50
送迎	15:50～	16:30
清掃・記録等	16:30～	17:00
職員打ち合わせ	17:00～	17:30

7 重点課題・目標に対する成果と課題

1) 活動

(1) PDCAサイクルの実施による利用者支援の充実。

- ①長期目標、短期目標、支援上の重点との関連付けを整理し個別支援計画を作成する。また、計画に基づいた支援の実施、評価、見直しを実施する。
- ②個別支援計画に基づいた作業の実施及び作業技術の向上。
- ③相談及び生活支援の充実。

【成果と課題】

利用者と職員は良好な関係性が築かれており、利用者支援についても概ね丁寧に行われていた。ただし、日常の支援や関りが個別支援計画に反映されていないことが多く、計画がスタッフ間の合意や検証からのボトムアップで作成されていないことが多かった。結果的に目標と支援方針の関連性が弱い、目標が整理されていないなど、不十分な計画になったうえ、全職員にとって身近なものになりにくいということになってしまった。また、ケース記録も、作業の達成度、生活面、心情面、相談事項等の記述が不足していることが散見され、適切な評価が十分に行われなかった。施設長と職員また職員間の意思疎通の不足と計画作成のプロセスに問題があると考え、令和5年度の個別支援計画作成に向けて、全職員で利用者の情報共有や支援方針に関する意見交換を行うことから始めたところである。

(2) 就労支援事業の充実

①クッキー事業

- ・職員の技術向上（担当者数3名 ※一日あたり）
3名の担当職員を配置し、製造技術の向上に取り組む。月に2回、担当者の製造練習と各担当者の評価を行い、個々の目標設定を行う。
- ・利用者への作業指導の充実
個々の利用者の指導方法や到達目標等を個別支援計画に盛り込み、統一した方針で指導にあたる。また、会議や記録等により状況を共有するとともに評価を行う。
- ・毎月、製造計画の達成度を評価し、必要に応じて計画変更を行う。
製造計画の達成度等の現状を把握し、作業の振り返りや目標の再設定などを行うことで計画的に作業を行う。

目標製造個数

令和3年度の目標製造個数 年間30,000個（実績31,509個）

令和4年度の目標製造個数 年間24,000個（当初計画）

※昨年度末にベテラン職員の退職があり、製造能力が低下すると見込み、令和3年度の製造個数の実績数（見込）より目標個数を減少させた。

目標売上

令和3年度の目標売上 年間 5,200,000円（実績5,403,725円）

令和4年度の目標売上 年間 4,200,000円

【成果と課題】

年度当初担当職員を4名とし、製造担当を一日3名、出張販売担当1名の配置を交代制で行う体制を作ったが、12月に1名（令和3年度入職）が退職し、後任の職員の採用も計画通り進まなかったことから、各担当が固定となり、重層的な体制はできなかった。しかし、2名の担当者が年間を通して月2回の製造練習に取り組み、ベテラン職員がいた昨年度までのレベルには達していないものの徐々に製造技術が向上した。結果的に製造個数、売上ともに年間目標に達成することができたが、職員の残業に頼る部分も多く、担当職員の負担が大きくなってしまった。次年度は、職員採用をすすめ、一日あたりの製造担当3名、出張販売担当1名を安定して確保し、重層体制の確立と、全員の製造技術と速度の向上を目指したい。また、利用者への作業指導については、ここ数年は製造目標を達成するために時間に追われてしまい、全利用者に対し、新しい工程へのチャレンジや丁寧に指導する機会がもてないことが多かったが、この反省を踏まえ、今年度後半に製造に携わる16名全員を対象に作業指導に取り組んだ。内6名の利用者に技術の向上が見られ、品質の向上や製造技術の向上による利用者の仕事に対するやりがいを引き出せたと感じている。

	製造数	売上
令和3年度実績	31,500個	5,400,000円
令和4年度目標	24,000個	4,200,000円
令和4年度実績	31,000個	5,200,000円
差	7,000個	1,000,000円
(達成率)	(129.2%)	(123.8%)

②パン事業

- ・職員の技術向上（担当者数3名）
- ・新商品の開発
- ・販路拡大（定期注文先および販売先の獲得）
- ・毎月、製造計画の達成度の評価を行う

目標製造個数

令和3年度の目標製造個数 年間30,000個（実績23,938個）

令和4年度の目標製造個数 年間24,000個

※新型コロナウイルス感染症の影響により、販売機会が増えないことを想定し、令和3年度の製造個数の実績数（見込）と同数を目標とする。

目標売上

令和3年度の目標売上 年間 3,750,000円（実績3,108,527円）

令和4年度の目標売上 年間 3,000,000円

【成果と課題】

年度当初担当職員を4名配置し、製造担当を一日3名が交代制で行い、クッキー作業同様重層的な体制を作る計画であった。しかし、10月に1名（令和3年度入職）が退職し、後任の職員を採用するも欠勤が多く（2月には退職）、クッキー作業同様、職員がほぼ固定する形となってしまった。ただし、年間を通して毎日作業に携わった職員2名には製造技術の向上がみられた他、商品開発の提案が活発になるなどの成果があった。また、利用者にも技術向上が見られ、昨年度と比較し、複雑な形状やトッピングが多い種類のパンの製造が可能になり26種類の新商品の開発が行えた。新商品の売れ行きも順調で、季節限定以外の15種類は商品として定着し、年度当初19種類であった定番商品は34種類となった。また、これまでの定番商品で売れ行きが悪かった商品については、トッピングやソースを替えるなどの工夫で、多くの商品は売上を上げることができた。販路の拡大については、市内の児童養護施設からの依頼により、定期注文を月2回程度受けることとなった。また、昨年度に引き続き店舗の売れ行きが良くない日に保育園へ出張販売を行うことで、年間を通し売れ残りによる廃棄はほぼなかった。先にも述べたように、複雑な形状やトッピングが多い種類が増えたことで、一つ当たりの製造にかかる時間が多くなり、製造個数は年間目標に達しなかったが、時間が掛かる分、価格を上げることで売上は年間目標に達することができた。

	製造数	売上
令和4年度目標	24,000個	3,000,000円
令和4年度実績	22,400個	3,070,000円
差	△1,600個	70,000円
(達成率)	(93.3%)	(102.3%)

(3) その他の作業を含めた収入

	目標作業収入（円）	令和3年度実績	差額
クッキー製造事業	420万円	540万円	△120万円
パン製造事業収入	300万円	311万円	△11万円
清掃作業収入	158万円	165万円	△7万円
受注作業収入	10万円	8万円	2万円
その他作業等	4万円	8万円	△4万円
合計	892万円	1,032万円	△140万円

【成果と課題】

受注作業は計画をやや下回ったが、清掃作業は計画通りに実施することができた。この他、新たに農福連携によるトマト収穫作業などを行ったことで、総収入は令和3年度比で27万円減となったが、目標収入を113万円上回った。また、月額平均工賃は11,182円となり、前年度を下回った。

令和4年度

《収入目標の達成率》 ※概算

	クッキー	パン	清掃事業	受注事業収入等	合計
4年度目標	420万円	300万円	158万円	14万円	892万円
4年度実績	520万円	307万円	163万円	15万円	1,005万円
差額	100万円	7万円	5万円	1万円	113万円
(目標の達成率)	(123.8%)	(102.3%)	(103.2%)	(107.1%)	(112.7%)

《収入実績の前年度との比較》 ※概算

	クッキー	パン	清掃事業	受注事業収入等	合計
3年度実績	540万円	311万円	165万円	16万円	1,032万円
4年度実績	520万円	307万円	163万円	15万円	1,005万円
差額	△20万円	△4万円	△2万円	△1万円	△27万円

《月額平均工賃》

	作業収入	月額平均工賃
令和3年度実績	1,032万円	13,529円
令和4年度目標	892万円	10,000円
令和4年度実績	1,005万円	11,182円
目標の達成率	112.7%	111.8%
前年度比	△27万円	△2,347円

2) 人材育成

(1) 職員の定着率の向上

- ①職員一人ひとりの役割を明確にし、業務の目的や効果を伝えていくにより、職員個々の仕事に対する意欲を向上させる。
- ②職員間のコミュニケーションを密にし、チームワークの強化を図る。

(2) PDCAサイクルの実施による利用者支援スキルの向上

- ①利用者の状況や希望に合った個別支援計画を作成し、支援計画に沿った支援を行う。また、支援経過の記録や会議等で共有するとともに、それに基づいた評価、見直しを行う。

【成果と課題】

- (1) 令和4年度は4名の職員が退職し、定着率の向上については改善が図れなかった(2名は令和3年度採用、2名は4年度採用)。全体的にコミュニケーションが不足していたことから、事業所の役割や方針など、共通の目的意識をもって業務にあたることが不十分となっていた。また、その影響もあり、担当業務以外の業務に関与しない状況もみられた。これらの状況を改善するため、1月末から情報の共有に力を入れ、コミュニケーションの強化に取り組んだ。徐々にではあるが、利用者状況、各作業等の進捗、業務目的等職員一人ひとりが情報を共有しながらチームワークの形成を意識し業務にあたる姿勢がみられるようになってきた。

- (2) 7-1) (1) に記載。

(3) その他

数年に渡り、就労支援事業の各作業に担当職員を配置し、多くの職員は年間を通して同じ

業務に携わってきた。令和4年度も前述のように職員の定着率の低さも影響し、職員の担当業務が固定してしまうことで、担当以外の業務や利用者の状況が把握しにくくなり、結果的に他の業務への無関心、相互補完が困難な状況となった。結果として、職員のチームワークが形成されず、担当者不在の時のリスク管理にも不十分となった。次年度以降、職員の担当を重層的にすることで、チームワークの形成とリスク管理能力の向上を図りたい。

3) 経営管理

(1) 訓練等給付費の安定確保

《令和4年度目標（2名受入）》

1日平均利用者39人（48人在籍利用率80%）を目標とし、利用者の安定通所を図る。

（令和3年度2月末実績：1日平均利用者37.0人、46人在籍—令和4年2月末現在。）

令和4年度 目標 利用者2名受入れ

【成果と課題】

今年度新規利用者3名を受け入れ、利用者数は48名となった。新型コロナウイルスの感染拡大等による利用自粛が大きく影響し、1日平均利用者数は38.5名となり目標の39名には達しなかったが収支は黒字となった。

(2) 月次試算による経営状態の把握

毎月の月次試算の分析を丁寧に行い、予算執行を計画的に行う。

【成果と課題】

月次試算表をもとに毎月の経営状態を把握し、支出についても計画的に予算が執行された。

(3) コスト削減

節電節水節約に務めコストの削減を行う。

【成果と課題】

年度当初はコスト削減への意識が不足し、節電が不十分であったが、徐々に改善が図られている。

8 その他の成果と課題

- 希望する職員及び利用者新型コロナウイルス及びインフルエンザのワクチン集団接種を実施した。新型コロナウイルス罹患者は18名（利用者12名、職員6名）あったが、事業所内での集団感染は発生しなかった。

9 事故等報告

- 11月8日に匿名で本部に当事業所に対しての苦情があり、内容を精査した上で以下の通り解決策を講じた。

	苦情①	苦情②
事業所名	小平第二みどり作業所	小平第二みどり作業所
受付日	令和4年11月8日	令和4年11月8日
申出者	利用者	利用者
内容	職員から注意を受けた際の言い方に気分を害した。	クッキー用の布巾を他の洗濯物と一緒に洗っているが、衛生面で気になる。
解決策	今後、伝え方について注意する旨を伝えた。双方言い方が異なる場合への対応のため、今後は複数の職員で対応し、記録を残すこととした。	別々に洗うように周知徹底を行った。
解決日	令和4年11月11日	令和4年11月9日

- 11月30日未明に建物の窓ガラスが割られ不法侵入の被害があった。侵入時間が未明であったため、利用者、職員に怪我はなかった。警察へ通報し、現場検証が行われ、窓ガラスや扉など3か所の破損があったものの、金品等は盗まれていなかった。侵入の形跡があった場

所にだけ人感センサーライトが付いていなかったため、再犯防止対策として人感センサーライトを設置した。

1.0 開所状況

- 1) 開所期間 自 令和4年4月1日 至 令和5年3月31日
- 2) 開所日数 (1) 週開所日数 5日間
(2) 開所時間 午前9時～午後4時
(3) 年間延開所日数 242日間 (前年度 241日間)
(4) 平均活動時間 7時間

1.1 利用状況

- 1) 利用者延人員 9,307人 (前年度 8,964人)
- 2) 1日平均利用人員 38.5人 (前年度 37.2人)
- 3) 体験実習者延人員 35人 (前年度 55人)
- 4) 1日平均実習人員 0.14人 (前年度 0.23人)
- 5) 実習者実人員 9人 (前年度 10人)

1.2 利用者状況 (令和5年3月31日現在)

- 1) 年齢
 - 20歳未満 0名
 - 20歳以上30歳未満 18名
 - 30歳以上40歳未満 10名
 - 40歳以上50歳未満 10名
 - 50歳以上60歳未満 9名
 - 60歳以上70歳未満 0名
 - 70歳以上 1名
- 2) 障害の状況
 - 愛の手帳 44名 (内身障手帳5名、精神保健手帳1名)
 - 身体障害者手帳 7名 (内愛の手帳5名)
 - 精神保健福祉手帳 2名 (内愛の手帳1名)
 - 手帳不所持 1名
- 3) 通所手段
 - 送迎車利用 20名 (内1名家族送迎、6名交通機関、徒歩等2名)
 - 交通機関利用 13名 (内6名送迎)
 - 徒歩等 18名 (内2名送迎)
 - 家族送迎 6名 (内1名送迎)
- 4) 居住状況
 - 管内居住 37名 管外居住 11名
- 5) 性別
 - 男性 31名 女性 17名

1.3 利用者工賃

平均工賃	月額	:	11,182円 (前年度 13,529円)
	日給	:	686円 (前年度 790円)
	時給	:	203円 (前年度 200円)

1.4 生活支援PG実施状況

- 1) 実施日数
 - (1) PG実施日数 150日
 - (2) 週平均実施日数 2日

- 2) 利用者（令和5年3月31日現在）
- (1) 利用者数 2人
 - (2) 利用者延人数 150人
- 3) 支援者（令和5年3月31日現在）
- (1) 職員 1人
 - (2) ボランティアスタッフ 3人
 - (3) 職員延人数 1人
 - (4) ボランティアスタッフ延人数 150人
- 4) 内容
- (1) ウォーキング 150回
 - (2) プール 0回

1.5 夕方生活支援事業実施状況

- (1) 参加者 実15名 延べ160名
- (2) 延実施回数：65回

【月別実施状況】（※8月より事業再開）

実施月	実施回数	延参加人数
4月	0回	0人
5月	0回	0人
6月	0回	0人
7月	0回	0人
8月	8回	15人
9月	8回	25人
10月	8回	18人
11月	8回	21人
12月	8回	20人
1月	9回	19人
2月	8回	20人
3月	8回	22人
合計	65回	160人

【内容別実施及び参加状況】

内容	実施回数	延参加人数
さんぽ	8回	24人
ボウリング	17回	43人
料理	8回	29人
テーブルゲーム	3回	2人
ドライブ	8回	30人
DVD鑑賞	14回	22人
ヘアークット	7回	8人

1.6 環境の整備

定期的に室内や建物周辺の清掃を実施し、年間を通して清潔な環境を保つことができた。

1.7 防災

9月と3月に災害時避難訓練を実施した。3月に小平手をつなぐ親の会と法人が共催で実施した防災訓練に参加した。